

イースターについて

樋 口 進

イースター（復活日）は、イエス・キリストの復活を記念する日です。これは、キリスト教においては、重要な祝日で、クリスマス（降誕日）、ペンテコステ（聖霊降臨日）と並んで三大祝日とされています。

その中で、最も早くから祝われているのが、イースターです。これは最初は、ユダヤ教の過越祭の日に祝われたり、その次の日曜に祝われたりして、論争がおこり（復活日論争）、325年のニカイア総会議以後、一定の日が定められました。それは、春分の次の満月の次の日曜です。今年のイースターは、4月8日ですが、来年は3月31日になります。ちなみに、今年の関西学院のイースター礼拝は、4月25日（4月の第4水曜日）に、ランバス記念礼拝堂で行われます。皆さんも出席されてはいかがでしょうか。出席者にはきれいな玉子が贈られますよ。

イエスの復活が日曜の早朝に起こったことから、キリスト教ではそれを記念して日曜日に礼拝を行うようになりました。ユダヤ教の安息日は土曜日でしたが、キリスト教では、イエスの復活を記念して、日曜日が礼拝の日となりました。そこで、西洋では、日曜日を休日とする伝統が生まれ、日本でも明治政府がそれを取り入れました。現在日曜日は、休日として定着していますが、元々はイエスの復活を記念する日として始まったのです。

イースターには、きれいに彩色されたゆで玉子が配られる習慣があります。関西学院のイースター礼拝でも、きれいな模様のついたゆで玉子が配られます。ドイツではオスターハーゼ（復活祭のウサギ）が籠に玉子を入れて、子どもたちに運んでくるといふことで、街角のウインドウには、ウサギの人形がよく飾られます。卵から新しい生命がその殻を破って出てくるというのが、復活のイメージとなっているからこのような習慣が生まれたのでしょう。

死んだ人間がよみがえるということは、考えられないことですが、それを信じた弟子たちの伝道からキリスト教が起こったのです。この信仰がなければ、キリスト教も生まれなかったでしょうし、キリスト教主義の関西学院も創立されることもなかったでしょう。

（宗教センター宗教主事）